

研究発表会開催通知

(昭和 62 年 2 月 15 日～3 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
設 計 自 動 化	2 月 17 日(火)	9 : 15～17 : 00	機械振興会館	前号参照
情 報 シ ス テ ム	2 月 17 日(火)	14 : 00～17 : 00	同 上	同 上
情 報 学 基 礎	2 月 20 日(金)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と CAD	2 月 26 日(木)	13 : 00～17 : 00	NHK 技 研	同 上
オペレーティング・システム	2 月 27 日(金)	9 : 30～16 : 30	機械振興会館	同 上
日 本 語 文 書 処 理	3 月 4 日(水)	13 : 30～17 : 00	同 上	下記参照
マルチメディア通信と分散処理	3 月 5 日(木)	9 : 00～17 : 00	同 上	同 上
知 識 工 学 と 人 工 知 能	3 月 12 日(木)	9 : 10～17 : 00	同 上	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ	3 月 13 日(金)	13 : 00～17 : 00	京 大	同 上
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	3 月 13 日(金)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
数 値 解 析	3 月 14 日(土)	9 : 30～12 : 30	慶 大	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	3 月 16 日(月)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	3 月 17 日(火)	10 : 00～17 : 00	東 工 大	同 上
自 然 言 語 処 理	3 月 27 日(金)	13 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上

◆ 第 11 回 日本語文書処理研究会

(発表件数：4 件)

(主査：山田尚勇，幹事：坂下善彦，首藤正道)

日 時 昭和 62 年 3 月 4 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，国電：浜松町下車。バス：渋谷ー東京タワー線東京タワー，渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車。Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) 標準時間法による入力方式別スピード比較実験

大島章嘉 (日本能率協会)

〔概要〕 同一文書を打った場合のスピードを比較することにより各種入力方式の操作性の良否を判定しようとする。

(2) ワープロ利用者の思考時間模型再論ー他ーの被験者ではどうかー

谷越造一郎，木村 泉 (東工大・理)

〔概要〕 さきに提案した思考時間模型を，複数の被験者のデータについて検証し，模型に一般性があることを示す。

(3) 日本語文入力方式の「体験入隊方式」による評価

木村 泉 (東工大・理)

〔概要〕 暗唱ずみの文を Dvorak 鍵盤ローマ字打ち、および豊橋方式で繰り返して打鍵し、その経験をもとに方式の将来を占う。

(4) キーボードのブラインド・タッチ短時間練習法 増田 忠 (ギヤルド)

〔概要〕 指の運動能力を利用して、どの入力方式でもブラインド・タッチが短時間で習得できるテープ教材を開発した。

◆ 第 32 回 マルチメディア通信と分散処理研究会 (発表件数：13 件)

(主査：野口正一，幹事：浦野義頼，河岡 司，白鳥則郎)

日 時 昭和 62 年 3 月 5 日 (木) 午前 9 時～午後 5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
議 題 小特集：高機能インタフェース

9: 00～12: 20 (7 件)

(1) 高機能インタフェースの現状と展望

高木英明 (日本 IBM)，川合英俊 (電総研)

〔概要〕 本研究会のテーマである「高機能インタフェース」の技術動向を展覧する。

(2) 日本語 PC/VM BOND：マイクロ・メインフレーム結合の実現例

黒沢 隆 (日本 IBM)

〔概要〕 マイクロ・メインフレーム結合用ソフトウェアの一例である日本語 PC/VM BOND の機能について紹介する。

(3) Host-Link

田辺達男 (バロース)

〔概要〕 ホスト・コンピュータとワークステーションが互いの特徴を生かす分散型マイクロ・メインフレームシステム。

(4) 日立におけるマイクロメインフレームリンクの設計思想

笹部秀雄，大島信幸 (日立)

〔概要〕 日立におけるマイクロメインフレームリンクの開発の基本的考え方と方式につき概説する。

(5) ファクシミリ通信アダプタ

川村克彦 (沖電気)

〔概要〕 マルチメディア文書の GⅢ ファクシミリへの送出及び受信機能を持つポータブルなメディア変換アダプタの紹介。

(6) ベクタコマンドと文字コードによる図面のファクシミリ送出システム

酒井修二 (沖電気)

〔概要〕 ホスト計算機と回線接続しベクタコマンドと文字コードから成る図面データを GⅢ ファクシミリへ送出するシステム。

(7) 分散処理環境における音声処理とイメージ処理 佐々木澄 (富士通)

〔概要〕 近年技術革新の大きい音声処理とイメージ処理について、分散環境との関連において述べる。

13: 30～17: 00 (6 件)

(8) IBM SNA モデルの紹介

大貫和永 (日本 IBM)

〔概要〕 61 年 10 月に発表された IBM SNA モデルの機能の紹介。

(9) パソコン通信ネットワークサービスのインタフェース

渡辺 徹，岩渕 明，島津芳広 (NTT 通研)

〔概要〕 パソコン通信サービスのインタフェースについて、考え方、MHS、関連標準との関係、特徴等を紹介する。

(10) パソコン内蔵通信プロセサシステム 木下雄弘（東芝）

〔概要〕 パーソナルコンピュータにおける通信アダプタとして内蔵通信プロセサシステムを開発したので報告します。

(11) 異種ネットワーク間インタフェース 佐野 晋，他（日電）

〔概要〕 UNIX 上に開発した IEEE 802.3, X. 25, など異種ネットワーク間ゲートウェイインタフェースを紹介。

(12) 階層構造ネットワークにおける X. 25 コネクション形 LAN の実現方式
多々良浩司，加藤裕一，止部久仁彦（三菱電機）

〔概要〕 X. 25 により広域網と LAN を統合した。コネクション形 LAN の例として方式・性能・得失を報告する。

(13) ブロードバンド LAN 技術のワークステーションへの適用方式

柳生和男，平田哲彦，小林 智（日立），森藤素良（八木アンテナ）

〔概要〕 ブロードバンド LAN 用の LAN 制御プロセッサ（OSI トランスポートクラス 4 実装）を開発し，WS に適用した。

◆ 第 51 回 知識工学と人工知能研究会

（発表件数：10件）

（主査：堂下修司，幹事：西田豊明，米澤明憲）

日 時 昭和 62 年 3 月 12 日（木）午前 9 時 10 分～午後 5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室（所在地は前記参照）
議 題 9：10～11：50（4 件）

(1) 文字列領域の推論システム 赤間 清（北大・文）

〔概要〕 文字列領域での推論システムと応用の可能性について述べる。

(2) 継承階層インデキシング 赤間 清（北大・文）

〔概要〕 継承階層構造を用いてクローズインデキシングを行い，継承階層 Prolog をさらに高速化する技術について述べる。

(3) Circumscription による概念階層の再構成

中川裕志，萱島 信（横浜国大・工）

〔概要〕 サークamsクリプションを用いて，階層世界において生じた矛盾を解消する方法について論ずる。

(4) エピソードネットワークを用いた物語理解

野崎広志，重永 実（山梨大・工）

〔概要〕 自然言語文の物語からエピソードのネットワークをつくり，質問応答とあらすじ生成に利用した。

12：50～17：00（6 件）

(5) 二次元図形の概念学習システム

松井良男，辰己昭治（豊橋技科大）

〔概要〕 訓練例の順序を考慮しない，教師の負担軽減を目的とした，二次元図形の概念を抽出するシステムを構築する。

(6) 回路の定性的解析の高速化

外山 滋（東工大・理）

〔概要〕 従来の定性的解析で起こる計算量の問題を、回路の性質を利用することにより解決する方法を提案する。

(7) SIMPOS/PSI の名前づけ 青柳龍也 (東大・工)

〔概要〕 ICOT の推論マシン PSI の OS-SIMPOS における名前づけの調査報告を行う。

(8) 将棋における知識の利用

溝口伸雄, 鳥居 稔, 小谷善行 (農工大・工)

〔概要〕 将棋における知識の種類とそのルールによる表現方法および利用法について、ひとつの提案を行う。

(9) 深い知識に基づくドメイン特化型シェルの構築

田岡直樹, 山口高平, 溝口理一郎, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 4 種類の「深い知識」から故障診断ルールを自動生成する機構を備えたドメイン特化型シェルについて述べる。

(10) 属性の発見機能をもつ決定木の自動生成

一連続音声認識システム SPREX への応用—

竹之内正一郎, 辻野克彦, 溝口理一郎, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 連続音声認識システムにおける子音認識用決定木の自動生成に関して属性の発見機能を持つ学習方式について述べる。

◆ 第 44 回 マイクロコンピュータ研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 安田寿明, 幹事: 岡田義邦, 斉藤 剛, 若鳥陸夫)

日 時 昭和 62 年 3 月 13 日 (金) 午後 1 時～5 時

会 場 京都大学工学部 電気教室 総合館大会議室

〔京都市左京区吉田本町, 国鉄: 京都下車, 市バス: 17 番 (錦林車庫) 百万遍下車, 地下鉄: 北大路行にて今出川下車, 市バス: 烏丸今出川バス停より 203・201 番にて百万遍下車. Tel 075 (751) 2111〕

議 題 (1) パイプライン処理とブランチ命令

吉田豊彦, 松尾雅仁, 上田達也, 清水 徹 (三菱電機)

〔概要〕 高度なパイプライン処理を行う計算機において, 過去の履歴に従うブランチ予測の有用性を評価した。

(2) 8ビットシングルチップマイコン MN 1870 シリーズ

井上武憲, 黒瀬純男, 水谷哲夫 (松下電子)

〔概要〕 特殊構造をもつ MN 1870 の概要と特徴的な機能, 応用法について述べる。

(3) LSI レイアウトデザインルールチェックを行うマルチマイクロプロセッサシステム

溝端教彦, 小野寺秀俊, 田丸啓吉 (京大・工)

〔概要〕 複数台の M 68000 を使用した LSI レイアウト設計をチェックする専用計算機について述べる。

(4) マイコン用ソフトウェア開発支援システム

河野清尊, 浅田保栄, 丸山幸孝 (松下電器)

〔概要〕 CRT 上で流れ図を編集することによってソースを生成するシステム。ソースから流れ図を作ることも可能。

(5) 流れ形処理概念に基づく高度並列連想処理方式の一検討

許 炎, 柳純一郎, 西川博昭, 寺田浩詔 (阪大・工)

〔概要〕 流れ形処理概念に基づく高度連想処理の一方式をその原理的特徴, システム構成法を中心に提案する.

◆ 第 57 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 2 件)

(主査: 田中英彦, 幹事: 喜連川優, 長谷川隆三)

日 時 昭和 62 年 3 月 13 日 (金) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 記号処理マシン ATOM のアーキテクチャ

和田良一, 本間真人, 岡本和男 (松下電器)

〔概要〕 表形式で表現されたリストを並列に処理することにより高速化した記号処理マシン ATOM について述べる.

(2) 実時間多重処理環境における共通資源保護方式

青木道宏, 上森 明, 新谷 廣 (NTT 通研)

〔概要〕 複数のプロセスから動的に確保/解放及び操作の対象となる共通資源をプロセスごとに保護・管理する方式の提案.

(3) パネルディスカッション: メインフレームとワークステーション

パネリスト 金田三郎 (富士通), 小尾優三 (日電), 斉藤光男 (東芝)

大西達雄 (沖電気), 鈴木則久 (IBM)

◆ 第 20 回 数値解析研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 森 正武, 幹事: 唐木幸比古, 野寺 隆, 福井義成)

日 時 昭和 62 年 3 月 14 日 (土) 午前 9 時半～12 時半

会 場 慶応大学 日吉図書館 AV ホール (地下 1 階)

〔横浜市港北区日吉 3-14-1, 東横線: 日吉下車 (東口) 徒歩 3 分.

Tel. 044 (63) 1141〕

議 題 (1) 乱流の数値シミュレーション

堀内 潔 (東大・生研)

〔概要〕 スペクトル法 (フーリエ変換, チェビシェフ多項式) を用いた三次元チャンネル内乱流の数値解析について発表する.

(2) S-810 における大次元行列計算における拡張記憶の効果

後 保範 (日立)

〔概要〕 大次元の連立一次方程式を, スーパーコンピュータの拡張記憶を使用して効率良く処理する方式を示す.

(3) 問題の性質を利用した大規模スパース行列の高速解法

福井義成 (東芝)

〔概要〕 解くべき問題のデータ構造の特徴を利用して大規模スパース行列を高速に解く手法の例について述べる.

(4) ベクトル計算機における SOR 的方法の効率について

杉原正顕, 小柳義夫, 森 正武 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 並列計算機で SOR 法を単純に実行させると本来の SOR 法とは異なる方法になる. その方法の効率を論ずる.

(5) 補間法に関する注意

一松 信 (京大・数理研)

〔概要〕 方法自体は既知だが、有限体上の多項式の補間に有用な効率的算法を工夫した。

◆ 第58回 データベース・システム研究会

(発表件数：5件)

(主査：上林弥彦，幹事：石井義興，鈴木健司，三浦孝夫)

日時 昭和62年3月16日(月) 午後1時半～5時

会場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議題 (1) 言語依存型構造エディタにおける構文データの管理

松田孝子 (東北大・大型計算機センター)

〔概要〕 FORTRAN 構造エディタにおいて構文データをシステムから独立にし管理する方法について述べる。

(2) 非正規形ビューに基づく検索の正規形操作への変換法

木山 稔，中野良平 (NTT 通研)

〔概要〕 非正規形ビューに基づいた検索を正規形の関係論理に変換するアルゴリズムについて述べる。

(3) 非正規型モデルへの演繹的アプローチ

横田一正 (ICOT)

〔概要〕 非正規型モデルに基づいたデータベース／知識ベース管理システムに対する演繹的アプローチについて述べる。

(4) Problem of Locking in Database Concurrency Control Mechanisms

仲 興国，上林弥彦 (九大・工)

〔概要〕 従来のロック概念を変更し，読み出し操作要求による衝突がデッドロックを起こさない並行処理制御方式を提案する。

(5) 履歴データベースにおける更新機能とビュー機能について

徐 海燕，上林弥彦 (九大・工)

〔概要〕 履歴データにおいて，過去のデータの更新，並行処理およびビュー機能について，今までの履歴データベースで考えられていなかった操作について検討した。

◆ 第47回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数：9件)

(主査：白井良明，幹事：松山隆司，吉田真澄)

日時 昭和62年3月17日(火)，午前10時～午後5時

会場 東京工業大学 長津田キャンパス 大学院4号館 大会議室(2F)

〔横浜市緑区長津田町 4259，田園都市線：すずかけ台下車，徒歩10分(渋谷から約60分)。Tel. 045 (922) 1111〕

議題 10:00～12:00 (3件)

(1) 顔画像処理による頭の動作識別法 間瀬健一，末永康仁 (NTT 通研)

〔概要〕 顔画像処理により上下，左右の回転等の動作を抽出し，「はい／いいえ」などの動作を識別する手法を述べる。

(2) 濃淡画像認識のための多元特徴抽出機構

目黒眞一，佐野睦夫，石井 明 (NTT 通研)

〔概要〕 濃淡画像認識に有効な多元特徴の統一化された抽出機構を提案し，実画像の認識実験により，その有効性を示す。

- (3) 対話型画像処理ルーチンハンドラ 高木幹雄, 鈴置雅一 (東大・生研)
〔概要〕 汎用性の高い階層的データ構造を用い, 各種の画像処理ルーチンを接続し, 対話的に効率よく駆動する。

13: 00~17: 00 (6 件)

- (4) 可変スリット法とハフ変換の関係 中島重義, 長尾 真 (京大・工)
〔概要〕 金属面でも2方向のスリット光を投射することで, 正しい3D情報を抽出し, 面を認識するシステムを開発した。

- (5) 2方向からのスリット光投影による3次元情報の抽出と認識
渡辺弥寿夫, 中野幸一, 漢野救泰, 奥野 孝 (金沢工大)
〔概要〕 画像から直線を抽出する方法として, 著者らの開発した可変スリット法とハフ変換の関係について考察する。

- (6) 境界から面の推論 徐 剛 (阪大・基礎工)
〔概要〕 線画の線分はしばしば囲むサーフェースの曲率線である。バンダリを曲率線と見なすことにより, サーフェースを復元できる。

- (7) 長さや角度の拘束条件 金谷健一 (群大・工)
〔概要〕 線分の長さや角度に関する拘束条件を中心射影による投影像上で, カメラ回転変換を用いて一般的に表わす。

- (8) 室内移動ロボットの環境認識システム
鄭 降 宇 (阪大・基礎工)
〔概要〕 室内ロボットのステレオ画像を線分単位で対応する戦略及び画面上での自由領域探索について検討する。

- (9) 道路情報処理とコンピュータビジョン
安居院猛, 中嶋正之 (東工大・像情報)
〔概要〕 主として, 安居院・中嶋研で行っているコンピュータビジョンに関する各種の道路情報処理について紹介する。

17: 00~

- (10) 見学: 東京工業大学 像情報工学研究施設
(安居院, 中嶋研究室 & 辻内本田研究室等)

◆ 第60回 自然言語処理研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 吉田 将, 幹事: 田中穂積, 野村浩郷, 日高 達)

日時 昭和62年3月27日(金)午後1時~5時
会場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)
議題 (1) コスト最小法を用いた日本語文の形態素解析

- 吉村賢治, 武内美津乃, 津田健蔵, 首藤公昭 (福岡大・工)
〔概要〕 ヒューリスティックとしてのコスト最小法を用いた日本語文の形態素解析アルゴリズムについて報告する。

- (2) 黒板モデルの導入により後戻り処理を伴わないべた書き日本語文の解析
一本木真史, 浅野 晃, 上原邦昭, 豊田順一 (阪大・産研)
〔概要〕 黒板モデルの導入により, 格文法による意味抽出を文の入力と同時進行的に進める解析システム。

(3) 知識データ（語と語の関係）による多義性の解消

田中康仁（姫路短大），吉田 将（九工大・情工）

〔概要〕 語と語の関係による知識データにより，機械翻訳の際に発生する多義語の問題を解決する方法について述べる．

(4) エスペラントを仲介言語とする機械翻訳Ⅱ

牧野 悟，川出和秀，竹内健二，土井岳人，西尾伸也，山盛淳子

勝守 寛（中部大・工）

〔概要〕 先に作成した日本語からエスペラントへの翻訳プログラムを LISP を使ってかなり改良した．代表的翻訳例を示す．

(5) 物語文章における会話文枠組みの構成について 桃内佳雄（北大・工）

〔概要〕 物語文章中の会話文と他の文章との関連について考察し，会話文枠組み構成手続きについて基礎的な検討を行う．

「シリコンコンパイルーション技術」講習会開催について

ASIC 時代におけるシリコンコンパイラの役割についての標記講習会を，DA/CAD 技術者およびシステム設計者を対象に開催いたします．多数の方々のご参加をお願いします．

日 時 昭和 62 年 3 月 11 日（水）10：00～17：00

場 所 機械振興会館 大ホール（地下 2 階）

参 加 費 正会員 10,000 円，非会員 15,000 円，学生会員 1,500 円
（論文集のみ 3,000 円，送料 300 円）

申込締切 昭和 62 年 2 月 27 日（金）（定員 150 名になり次第締切ります．）
プログラムおよび申込書は前号本欄にあります．

ACM, IEEE-CS 入会の特典

情報処理学会は ACM と joint membership, IEEE Computer Society (CS) とは affiliate membership (準会員) の契約をそれぞれ結んでいます。しかし、その内容あるいは特典は少々趣を異にしますので、比較説明いたします。入会申込書は学会事務局にありますのでご利用ください (郵送希望の際は 70 円切手を同封ください)。

ACM 入会特典	IEEE-CS 入会特典
正会員会費 (US \$ 65) が 2 割引 (US \$ 52) になります。 • Communication of the ACM (月刊) の配布。 • ACM の journal や transactions などの刊行物を会員価格で入手できる。 • ACM の conference は会員参加費で参加できる。 • Special Interest Groups (SIGs) に会員参加費で加入できる。	正会員入会の特典はありません。(正会員会費 US \$ 68) 準会員の特典があります。(準会員会費 US \$ 39) • COMPUTER Magazine (月刊) の配布。 • CS の conference は正会員参加費です。 • CS の Magazine, Transactions など刊行物は正会員価格で入手できる。(ただし Spectrum は除く)注2) • Technical Committee に参加できる。 その他の特典 • 準会員にならない場合でも情報処理学会会員は所定の割引価格で CS の Magazine, Transactions を購入可注2)。
準会員 (affiliate member) の制度はありません。	

注 1) ACM の主要刊行物

Communication of the ACM	(月刊)	(会費に含む)
Computing Surveys	(季刊)	US \$ 11.00
Journal of ACM	(季刊)	15.00
Computing Reviews	(月刊)	30.00
ACM Guide to Computing Literature	(年刊)	75.00
Transactions on :	(季刊)	
Mathematical Software/TOMS		20.00
Database Systems/TODS		20.00
Programming Languages and Systems/TOPLAS		20.00
Graphics/TOG		26.00
Office Information Systems/TOOIS		22.00
Computer Systems/TOCS		22.00

注 2) IEEE-CS の主要刊行物

Magazine :	会員/準会員	情報学会
	(会費に含む)	割引価格
Computer	(月刊)	—
Computer Graphics & Applications	(月刊)	US \$ 26.00 37.00
Design & Test of Computers	(隔月刊)	17.00 28.00
Expert	(季刊)	12.00 22.00
Micro	(隔月刊)	17.00 25.00
Software	(隔月刊)	16.00 25.00
Transactions on :		
Computers	(月刊)	18.00 33.00
Pattern Analysis and Machine Intelligence	(隔月刊)	15.00 28.00
Software Engineering	(月刊)	18.00 33.00

昭和 62 年度 役員選挙について

本会定款第 20 条にも とづき、来る 5 月 20 日(水)開催の第 28 回通常総会をもって本会役員の半数が退任されます。したがって昭和 62 年度の役員の選挙は、2 月中旬に別途送付される投票用紙(往復はがき)により行われます。正会員各位は下記の要領により、同投票用紙にて もれなく投票をお願いいたします。

投票用紙記載の候補者は、投票者の参考に供するために、本会理事会が推薦したものです。この候補者の中から選定される場合は、下記の候補者名簿をご参照のうえ、「選定欄」に○印を付けてください。ただし、この候補者以外の会員(正会員に限る)を選定される場合は、それぞれの区分の空欄に氏名所属をご記入ください。

記

1. 別送の投票用紙(返信はがき)の選定欄に○印をおつけください。
2. 会長ならびに副会長はそれぞれ 1 名の単記、理事は、業務担当では〔教育／研究〕、〔製造・販売(A)〕、〔製造・販売(B)〕、〔利用〕の各分野別に 1 名の単記、編集担当では〔教育／研究〕、〔分野不問〕の各分野別に 2 名以内の連記、監事は 1 名の単記とし、これをこえた場合には無効とします。
3. 改選定数は、会長 1 名、副会長 1 名、理事 8 名、監事 1 名です。
4. 投票の締切は昭和 62 年 3 月 7 日(土)の郵便消印があるものまで有効といたします。
5. 投票用紙(はがき)は料金受取人払ですから、切手を貼付する必要はありません。
6. 投票用紙記載の候補者は 50 音順です。
7. 1 月 17 日現在で本年度会費未納者には投票用紙は送付いたしません。

昭和 62 年度 役員改選候補者名簿

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
会 長	大 野 豊	東 大 21	京都大学工学部教授
副会長	石 井 善 昭	東 大 26	日本電気専務取締役
	山 本 欣 子	東 女 大 23	日本情報処理開発協会常務理事
理 事 (業務担当)	〔教育／研究〕 有 山 正 孝	東 大 28	電気通信大学電気通信学部教授
	田 中 英 彦	東 大 40	東京大学工学部助教授
	中 西 俊 男	東 大 31	成蹊大学工学部教授
	〔製造・売(A)〕 上 原 貴 夫	早 大 40	富士通研究所ソフトウェア研究部長
	北 村 拓 郎	東 大 33	日本電気支配人
	小 泉 寿 男	東 北 大 36	三菱電機計算機製作所 小型計算機第二開発グループ部長
	〔製造・売(B)〕 大 野 恂 郎	東 大 39	日本ビジネスオートメーション取締役
	三 吉 健 滋	東 工 大 41	構造計画研究所総合技術営業部取締役総括部長
	〔利用〕 黒 川 恒 雄	京 大 28	日本銀行電算情報局調査役
	服 部 幸 英	東 大 24	日本鋼管機械事業部参与

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
理事 (編集担当)	〔教育／研究〕 牛島和夫 高橋延匡 島居宏次 橋本昭洋	東大36 早大32 阪大37 阪大36	九州大学工学部教授 東京農工大学工学部教授 大阪大学基礎工学部教授 N T T 情報通信処理研究所知能処理研究部長
	〔分野不問〕 鈴木則久 堂免信義 益田隆司 三木彬生	東大44 東大35 東大38 東大39	日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所所長 日立製作所システム開発研究所副所長 筑波大学電子・情報工学系教授 国鉄技術研究所情報システム研究室主任研究員
監事	間野浩太郎 山田尚勇	東大19 東大28	青山学院大学理工学部教授 東京大学理学部教授

(五十音順)

〔参 考〕

昭和 62 年度留任役員名簿

役職名	氏名	勤務先
副会長	浦 昭 二	慶 大
理事	石田晴久	東大
理事	植村俊亮	電総研
理事	片山卓也	東工大
理事	高根宏士	三菱東部CS
理事	立花佑介	N T T
理事	名内泰蔵	日立
理事	廣瀬健夫	早大
理事	福井隆夫	国鉄
理事	藤枝純教	C S K
監事	池野信一	電通大

退任役員名簿

役職名	氏名	勤務先
会長	尾関雅則	日 立
副会長	松尾士郎	N T T I
理事	新井克彦	N T T 研
理事	木村泉	東工大
理事	小林亮	日電
理事	島崎恭一	日本情報通信
理事	関 栄四郎	国鉄
理事	中田育男	筑波大
理事	堀越 彌夫	日立
理事	山田郁夫	三菱
監事	関口 茂	N S I S

情報処理学会第 34 回 全国大会(昭和 62 年前期)参加について

- 開催期日** 昭和 62 年 3 月 18 日(水)～20 日(金)
会 場 日本大学・理工学部・習志野校舎(千葉県船橋市習志野台)
プログラム 詳細は本号黄色のページに掲載してあります。交通、会場等はプログラム末尾の会場案内図を参照してください。

一般参加の方へ

1. **総 受 付** 日本大学・理工学部・習志野校舎 12 号館ロビー
 2. **参 加 費** 会 員 1,000 円(賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます.)
非会員 2,000 円(ただし電気、電子情報通信、照明、テレビジョンの各学会会員は会員扱いとします。会員番号を申し出てください。)
 3. **論 文 集 定 価** 6,000 円(予約価 5,000 円 2 月 23 日締切)
(当日、予約者以外にお頒けできるのは、残部のある場合に限りです。)
- ◎ 参加される方は、総受付にて参加費を納め、参加章を受けとってください。参加章のない方は会場に入れません。

一般講演を行う方へ

1. 講演者は、講演の始まる前に、必ず各セッション会場前の講演者受付で、出席の確認を受けてください。
2. 講演者は、前の講演者の講演時間中に、座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて、15 分を原則とします(都合により 13 分のセッションもあります)。講演中でも時間がくれば打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代読は認めません。

~~~~~

**学術奨励賞の表彰** 大会初日(18 日)午前に第 33 回大会受賞者の表彰を A 会場で行います。  
(その他の一般注意)

1. 食堂：学生食堂、休憩室等はプログラムの会場案内図参照のこと。
2. 電話の呼び出しはいたしません(万一止むを得ない場合のみ、伝言板に掲示)。
3. 駐車場がないので、自家用車による参加はできません。

## 学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後 10 年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約 10 名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る 3 月 18 日～20 日に日本大学理工学部で開催される第 34 回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者 1 名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第 34 回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 浦副会長）で行い、その発表と表彰は本年 9 月に開催の第 35 回全国大会（北海道大学）時に行われる予定です。

### 記

#### 選定範囲および推薦数

第 34 回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者 1 名。

**推薦資格** 本学会正会員に限る。

**推薦方法** 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてお送りください。

**推薦締切** 昭和 62 年 3 月 31 日（当日消印有効）

### 表 彰 規 程（抜 粋）

#### 第 5 章 学 術 奨 励 賞

第 19 条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第 20 条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第 1 回の委員会開催時とする）。
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第 21 条 第 20 条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第 22 条 学術奨励賞は、毎回約 10 名ずつ選定し、贈呈する。

第 23 条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1 名につき 20,000 円とする。

## 「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」 シンポジウム論文募集

昨今情報処理技術が社会に普及するにつれて、従来遅れていた学校へのコンピュータ普及率が急速に向上し始めています。同時に教育におけるコンピュータ利用の新しい方法の研究も活発化し、新しい試みが随所に見られるようになりました。

この時期に、この問題にかかわる多くの分野の研究者や利用者が一堂に会して、各々の立場から広く研究成果を発表し、経験を交換し、検討を行うことは重要な意味があると考えます。

このような観点から、教育調査委員会では、表記のシンポジウムを開催し研究発表並びにパネル討論を行うことを決定しましたので、下記により論文を募集します。

日 時 昭和 62 年 6 月 25 日 (木)

場 所 機械振興会館 研修 1 号室 (地下 3 階)

内 容 教育のためのコンピュータ利用に関する新しい理論、方法またはシステムに関する研究。ただし、コンピュータリテラシは含まない。例えば下のようなトピックスが含まれます。

- (1) 知的 CAI に関係するあらゆる研究、提案、経験
- (2) コンピュータを使った新しい教育の方法
- (3) 新しい教育用データベースとその利用法
- (4) CMI の新しい方法
- (5) LAN を用いた新しい教育の方法と経験

発表申込 3 月 31 日までに発表要旨を A 4 判用紙一枚程度にまとめて下記あてお送りください。

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会

「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」シンポジウム係

Tel. 03 (505) 0505

採否については 4 月 20 日 (月) までに通知します。採用決定者の論文提出期限は 5 月 22 日 (金) です。

なおこのシンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いします。

### 教育調査委員会

委員長 有山正孝 電気通信大学電気通信学部計算機科学科 Tel. 0424 (83) 2161

幹 事 御牧 義 “ 電子情報学科 “

“ 大槻説乎 九州大学工学部中央計数施設 092 (641) 1101

## 昭和 62 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

前号本欄でお知らせしたとおり、昭和 62 年度会費および購読費の納付書（郵便振替用紙）を 1 月下旬に発送いたしましたので、納入かたよろしくお願い申し上げます。（会費、購読費は 61 年度と同じで据置き。）

|     |             |                         |
|-----|-------------|-------------------------|
| 会 費 | 正会員 7,200 円 | 学生会員 3,000 円（大学院修士課程まで） |
| 購読費 | 論文誌 4,500 円 | 欧文誌 3,000 円             |

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3 月末までに率先してご納入いただきたく存じます。

## 第 5 回 データベースマシン国際ワークショップ日本開催と論文募集

標記国際会議は情報処理学会と ICOT(新世代コンピュータ技術開発機構)で本年 10 月軽井沢において共催いたします。これまで、フローレンス、サンディエゴ、ミュンヘン、パハマの各地で開かれ、今回が第 5 回です。論文要綱がきまりましたのでご準備ください。

正式名称 The 5th International Workshop on Database Machines

日 時 1987 年 10 月 5 日(月)～8 日(木)

会 場 長野県軽井沢 万平ホテル

論文募集要綱 締 切 り 1987 年 5 月 15 日(金)

論文体裁 フルペーパー 5 部 5,000 語, 英文

主なテーマ データベースマシン, 知識ベースマシンに関する  
以下のトピックス

### Database Machines

Database Machine Architecture

Filter Processors/Sorting Processors

High Performance Secondary Storage Systems

Software for Database Machines

Performance Evaluation

Main Memory Based Database Machines

### Knowledge Base Machines

Knowledge Base Machine Architecture

Semantic Network Machines

Production System Machines

Prolog Machines

Software for Knowledge Base Machines

AI Machine Architecture

問合せ先 〒107 東京都港区六本木 7-22-1 東京大学生産技術研究所

喜連川 優 Tel. 03(402)6231 Fax 03(423)2834

Call for Papers を必要な方はお申出ください。

## 論文誌，欧文誌の購読のおすすめ

論文誌，欧文誌の62年度からのご購読をおすすめいたします。本号に綴じ込みの申込書（受取人払い）により，早速にお申込みください。

なお，購読費は，62年6月の会費請求時に，請求させていただきます。

## 「画像処理エキスパートシステム」特集号の論文募集

### 論文誌編集委員会

情報処理学会論文誌編集委員会では，画像処理と知識工学の融合した新しい画像処理技術が急速に発展しようとしていることに鑑み，論文誌にて，「画像処理エキスパートシステム」特集号を昭和63年1月を目標に発行することにいたしました。このテーマに関する論文を会員から募集しますので，下記をご参照のうえ，奮って寄稿されますよう切望いたします。

#### 1. 対象分野

画像処理エキスパートシステムに関する研究

#### 2. 論文の執筆と取扱い

以下の点を除き通常の一般論文と同一としますので，論文誌原稿執筆のしおりをご参照のうえ，執筆・寄稿をお願いいたします。

(1) 特集号にできるだけ多数の論文を掲載するため，論文のページ数は1件8ページ（刷上り）以内に厳守してください。

(3) 論文には「画像処理エキスパートシステム」特集号論文と朱記すること。なお，特集号としての総ページ数制限を守るため，応募論文の中から通常の一般論文にまわす場合もありますので，あらかじめご了承ください。また，査読後の再提出期間（通常は90日）は短縮する場合があります。

#### 3. 論文寄稿締切日 昭和62年5月30日（土）必着

## 支 部 だ よ り

### 九 州 支 部

#### 支部研究会の開催について

下記により研究会を行いますので、論文の投稿ならびに参加をお願いします。

期 日 昭和 62 年 3 月 13 日 (金) 9:00~17:00

会 場 九州大学工学部情報工学科 4 階 414 講義室

発表申込 標題, 著者, 所属および 150 字以内のアブストラクトを 2 月 23 日までに下記  
あて送付のこと. 予定件数を超過の場合には発表をおことわりすることがあり  
ますので, できるだけ早くお申込みください.

論文発表 1 件 8 ページ以内, 20~30 分の発表を考えています.

申込先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学中央計数施設内  
情報処理学会九州支部 Tel. 092 (641) 1101 (内 5985)

## 本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内\*

講演会「エキスパートシステム：方法論と応用」

昭和 62 年 3 月 17 日 (火)~18 日 (水)

東京・国立教育会館

第 5 回 セミナーキャンプ「技能の知識表現と体系化は可能か？」

昭和 62 年 5 月 28 日 (木)~29 日 (金)

川崎市・日本光学研修センター

第 1 回 人工知能学会大会

昭和 62 年 6 月 30 日 (火)~7 月 2 日 (木)

学習院大学記念講堂

'87 人工知能 (AI) 展

昭和 62 年 7 月 6 日 (月)~9 日 (木)

東京流通センター

第 11 回 構造工学における数値解析法シンポジウム

昭和 62 年 7 月 14 日 (火)~16 日 (木)

東京・建築会館ホール

第 1 回 インテリジェント FA シンポジウム

昭和 62 年 7 月 21 日 (火)~23 日 (木)

大阪マーチャングイズマートビル

第 3 回 ヒューマン・インタフェース・シンポジウム

昭和 62 年 10 月 27 日 (火)~29 日 (木)

(大阪)

13th Int'l. Symposium on Mathematical Programming

1988 年 8 月 29 日 (月)~9 月 2 日 (金)

中央大学後楽園校舎

\*詳細は本号会議案内欄参照